



ボーナスが出ない!?!?

全日本空輸（ANA）は、新型コロナウイルスの感染拡大で業績が悪化したため2021年度の夏と冬のボーナス（賞与）を支給しない方針を固め、労働組合に提案しました。

ANAはコロナ禍を受けて従業員の月給と賞与のカットで人件費削減を進めてきました。2019年度まで毎年、夏と冬合わせて月例賃金の4～6カ月分を支給してきましたが、2020年度は夏1カ月、冬ゼロ。管理職の月給は職務等級によって8～15%カット、非管理職は一律5%カットされ、年収で約3割減。年間賞与ゼロとなれば、年収はさらに落ち込むこととなります。

また、日本航空（JAL）も2021年度賞与について会社側はまだ検討中とのこととです。



職場では「いくら出るのが不安な毎日」「月の手当が減らされ、生活が厳しい中でボーナスまで減らされたらモチベーションが下がる」「厳しい状況だからこそ社員の生活を第一に考えるべき!」「社員に対して何かないか?何かできないか?黒字化するためにできることはないか?だけではなく、もっと黒字化へ向けて本気になる会社の姿勢を見せるべき」「家族が一番心配している。ボーナスだけではなく会社は大丈夫なのか…」など組合員以外にも多くの声が寄せられています。

私たちJR東労組は、当然ながら家族と生活を守るために夏季手当を要求していきます。ある職場では「夏季手当は一時金の形で出るのでは?」「黒字化するためにはボーナス要求はしないんじゃないんですか?」「2カ月くらいじゃないか?」と言われているようですが…。このような安易な情報に惑わされることなく、21春闘の悔しさを晴らすためにも職場から議論を展開していきましょう!近日中に本部として申し入れを行います。私たちが本部交渉を支えるために何ができるのか?全組合員で今だからこそできる議論を展開していこう!

【日本のボーナスはいつから?】

江戸時代、大きな店の主人や職人の親方などがそこで働く奉公人に対して、着物を与える習慣「お仕着せ」これが日本におけるボーナスの最初といわれています。江戸時代には武士の給与の中にもボーナスが存在していたという話も耳にします。「役職手当」に役高、役料、役金、役扶持、合力米、四季施といったものがあって、その中の「四季施（しきせ）」というのがボーナスにあたると思われるとのこと。

要求実現に向けて職場から組合員一人ひとりが声を上げていこう!